



子どもの「ピンチ」に大人は？

校長

笹口小学校では今年度、子どもたちに育みたい3つの力として「可能性を伸ばす力」「尊重する力」「挑戦する力」を掲げ、「個性輝くみんなが誇りに思える学校づくり」に取り組んできました。この目指す3つの力の一つである「挑戦する力」を支える要素として、当校では「レジリエンス」を挙げています。この「レジリエンス」という言葉は、ラテン語が語源で、「弾力・回復力・しなやかさ」などと訳され、もともとは科学の分野で使われていました。最近では、「精神的回復力・困難を乗り越える力」といった意味の心理学の用語として割と各所で聞かれるようになりましたが、心理学的に使用されるようになったのは意外に古く、今から約50年ほど前にさかのぼります。

「あきらめない」とか「粘り強く」が大切だということは、日本の学校では当たり前のようになんて言われてきましたが、私が子どもの頃は、「あきらめる＝根性がない」といった風潮がありました。私より上の世代はもっとその色が濃かったかもしれません。

また、「いじめ」の問題についても、「いじめに屈する＝弱い心」といった風潮があり、このような中では、「いじめられる側も悪い」といったニュアンスが含まれていました。いじめに対する考え方も時代と共に変化してきていますが、「レジリエンス」の「上手にかわす・きりぬける力」は、いじめにおいても自分を守るための大切な力だと考えています。

子どもたちに人気の「大ピンチずかん」（鈴木のりたけ著）という絵本があります。パート3がこの4月に発売予定で、それを楽しみにしている子どもたちもいます。この本は、子どもが出会う様々なピンチをピンチのレベルやピンチへのなりやすさなどで分類し、その対処法を取り上げるなど、鋭い視点とユーモアでピンチについて解き明かしています。

子どもたちは日々の生活の中で、様々なピンチに出くわします。そのピンチに出くわした時、ピンチの告白があった時、周りにいる大人がどうかかわるかで、そのピンチの意味や子どもたちの心のもち様も大きく変わってきます。例えば、子どもたちがピンチに遭遇した時に一緒にあたふたすると、子どもたちの心の中では一層ピンチ感が増長され、心のパワーダウンにつながる場合があります。「あるあるだよね。」とさり気なく「同様のピンチは他の人にもあるよ」というメッセージを伝えることで「自分だけじゃないんだ」といった安心感につながることもあります。また、子どもたちの話に傾聴したりピンチの解決策を一緒になって考えたりすることが安心感につながることもあります。ここでの安心感こそが、何よりもレジリエンスの原動力となるのではないのでしょうか。

今年度、子どもたちは、様々なピンチを乗り越えてきました。ぜひ、そんな子どもたちの労を労う春休みにしてください。また、今年度も笹口小学校は、多くの保護者・地域の皆様から支えられてここまでできました。そんな多くの皆様のお力添えに深く感謝しています。一年間、本当にありがとうございました。

学校教育ビジョンで目指す3つの資質・能力
「可能性を伸ばす力」「尊重し合う力」「挑戦する力」について、
後期を振り返って、子どもたちが自分の成長を確かめました。
※終業式で発表してくれた児童の原稿を掲載します。

1年

わたしがこうきにがんばったことは、かん字れんしゅうです。

かん字がたくさんかいてある本でもすらすらよめるようになりたいので、かん字れんしゅうをがんばっています。

まいにち、かん字ドリルを見ながら、らくらくノートにできるだけたくさんかきました。かくときは、字もきれいにかけるようになりたいので、ていねいにかくように気をつけてれんしゅうしています。とくにかん字の字というかん字をかくのがすきです。バランスよくかけるとうれいす。友だちに「すごくていねいだね。」といわれてていねいにかいてよかったとおもいました。

これからもかん字れんしゅうをつづけて、たくさんのかん字をおぼえられるようになりたいです。(可能性・挑戦)



2年

私がこうきにがんばったことは、九九です。私は1年生でも2年生の前きのときでも九九がすらすら言えませんでした。でも2年生の後きでは、九九をたくさんれんしゅうして、すらすら言えるようになりました。



私が後きでがんばったことは、もう1つあります。それは二重とびです。

わたしはもともとなわとびがにがてだったけど友だちがなわとびをやっているところをみながらとんだら1回とべるようになりました。

そこからもっとたくさんれんしゅうしてもっとじょうずに二重とびがとべるようになりました。

私が3年生になってがんばりたいことは、体いくです。りゆうは、いまもとくいけどもっととくいになりたいからです。(可能性・挑戦)

2年

私が、2年生でがんばったことは、「フラダンス」のれんしゅうと、はっぴょうかいに出たことです。

フラダンスは、2年生からならいはじめたので、はっぴょうかいにはじめてのけいけんでした。だから、すごくきんちょうしたけれど、がんばったことは、「ハーフラ」とよばれるダンスです。

フラダンスの楽しいところは、音楽に合わせておどるところです。ハーフラのほかにも、ティアレなどとよばれるダンスもありますが、さいしょに教えてもらった「ブルームームー」と「ハーフラ」は踊ることが出来ます。

本番では、すこし失敗したけれど、他はせいこうだったので、とても嬉しかったです。

わたしは、まだ、フラダンスのしょしんしゃだけど、3年生でも続けるつもりです。そして、もっと上手になって、むずかしいティアレでもはっぴょうできるようにがんばりたいと思います。(可能性・挑戦)

3年

わたしは後期に可能性、尊重、挑戦を頑張ったと思います。

1つ目は可能性についてです。六年生を送る会の準備や飾り付けを、6年生が笑顔になるように、心を込めて作りました。

2つ目は尊重です。わたしはけやきっ子遠足の帰りに、同じけやき班の子の足取りが遅くな

っていたのに気づいたので、「もうすぐ学校だよ。」と励ましてあげました。

3つ目は挑戦です。けやきっ子祭りで、わたしは3年生になり初めてお店を出しました。初めてなのでドキドキしましたが、友達と一緒に、来てくれたお客さんに優しく「こんにちは」とあいさつをしたり、わかりやすいようにお客さんに案内したりしたら、初めてのお店も大成功しました。

もうすぐわたしは4年生になりますが、このパワーを使って楽しい4年生にしたいです。

(可能性・尊重・挑戦)

4年

私は、後期で印象に残っていることは、六送会で4年生がやったクイズです。話し合いで、役割を決めてじゅんぴや練習もふくめて、みんなで協力し合い、成功することができました。自分が担当するところをたくさん練習して、きんちょうしたけれどできてとてもうれしかったです。

学習では、漢字スキルもがんばりました。やる時の手順をめんどうがらずにやり、おぼえられるようにがんばりました。どんどん進めている友達を見て自分も進めようという気持ちになって、休み時間や家で進められました。

漢字スキルのテストでは、漢字ノートに文やじゅく語を書いて練習しました。まちがっていた時は、そこは自分の苦手な字なんだと思い、うらに正しい漢字をみながら練習しました。

これからも、学級で何かをする時は力を合わせて、友達を見習いながら漢字だけではなくたくさんの勉強をがんばっていきたいです。(可能性・尊重・挑戦)

4年

僕が4年生で頑張ったことはけやきっ子祭りです。特に頑張ったのはチームのみんなと協力してお客さんを笑顔にして、楽しくさせることです。実際にみんなで練習して、いざやってみると見事に目標が達成しました。その時はみんなで練習した成果を発揮できたので、ものすごく嬉しかったしお客さんを楽しくしたり笑顔にしたりできたのでよかったです。

僕はけやきっ子祭りを通して、練習すればするほど最後に笑顔になることに気づきました。なので、5年生になっても色々なことに取り組み、笑顔あふれるようにしたいと思います。

他にも、5年生になって頑張りたいと思うことは、高学年なので学校の副リーダーとして、低学年や小さい子どもを安心させて学校生活を楽しく過ごしてもらえるように頑張りたいと思います。

5年生になったら一つ成長した自分になり笹口小学校をより良い学校にしたいと思います。

(可能性・尊重・挑戦)



5年

私が、後期頑張ったことは、六送会です。この六送会で、私は、実行委員を務めていました。正直、実行委員会になる前には、大勢の前で話すのが苦手でした。そして、六送会の飾り付け・入退場係長になり、入場時のアナウンスを担当することになりました。私は、大勢の前で、たくさんの原稿を読むのが、とっても不安でした。しかし練習をたくさんすると、自信がついてきて、多分成功できる、が、絶対成功するになっていきました。

そして、六送会当日、自信满满で挑んだ結果、しっかりと役割を果たす事ができました。「6年生の皆さん、僕の入場に合わせて入場してくれてありがとうございました！」

六送会は、不安だったけど、始まってからとっても楽しくなって、最高の六送会にできました。実行委員会に立候補した日の自分と、今の自分は、全然違うなと思いました。このように全校の目の前で発表できているのも、六送会のおかげです。来年、6年生になっても、いろいろな役割に挑戦して、責任を果たして、成功させたいです！(可能性・尊重・挑戦)



5年

ぼくは後期で2つ頑張ったことがあります。

1つ目は、算数です。僕は3年生の時に、勉強をしなかったせいで、最初は、全く算数の内容が理解できなく、筆算すらできませんでした。しかし、頑張って勉強して、学習内容を理解して、今はテストで90点を取ることもあります。

2つ目は、理科です。モーターを作ったり、受粉など、さまざまな学習をしたりして、さまざまな知識を得ることができました。最初は前より理科ができなくなっていて、不安でしたが、少しずつ授業が進むにつれて、理解が深まっていくのを感じました。モーターを作る実験では、電気がどのように働くのかを学ぶことで、普段生活している中での技術の仕組みが少しずつ明らかになっていきました。クラスメートと協力して、モーターを動かすための回路を組むのはとても楽しかったです。



また、受粉の授業では、植物の成長や生態系の重要性について学びました。花や昆虫の生態についての話もわかりやすく、自然科学の面白さを再発見しました。授業が終わる頃には、最初の不安はすっかり消え、理科への興味がさらに深まりました。友達と一緒に実験をしたり、課題について話し合ったりしました。6年生になったら、全校をまとめ、責任を持って色々なことに挑戦しようと思います。(可能性・尊重・挑戦)

6年

6年生になってからいろいろな行事がありましたが、私が一番心に残っているのは、光のページェントです。

まず最初に、どんな食品だったら来てくれたお客さんに喜んでもらえるか、そしてその食品の値段設定を原価のことも考えながらやらないといけないということが大変でした。

歌の練習では、できるだけ大きく、はっきり言葉がお客さんに聞きとれるように歌いました。本番では、しっかり練習の成果を出し、最高の歌声を届けることができたと思います。

点灯式でけやき通りに光が灯ったとき、これは6の1みんなで作あげた景色なんだと思うと、私が今まで見てきたものの中で一番美しいと思えました。

この思い出を、中学校、高校、そしてその先も、ずっと忘れずにいたいと思います。

(可能性・尊重・挑戦)



6年

ぼくは6年間で、この文章に書ききれないほどの思い出ができました。思い返すと6年間は、長いようで短く、楽しい日々だったと思います。中でもずっと楽しみにしていた6年生の修学旅行は、いちばんの思い出になりました。1日目にトキの森公園を見学し、2日目は、さど金山に行ったり、おみやげを買ったりと思い出がたくさんできました。

小学校での生活は、あっという間で、とても楽しかったです。勉強をしたり、読書をしたりしていろいろなことを学び、とても充実していました。ぼくは、将来何になりたいか決まっていなくても、自分がしたいことを精一杯やっていきたいと思います。そして自分の意見を話せる、心の強い人になっていきたいです。中学校でも後悔がないように、小学校で学んだことを生かして楽しみたいと思います。(可能性・挑戦)

